PART2 青年期とは

Chapter1　青年期の特徴

目標
精神的な部分における青年期の特徴について考えよう。
青年期の人間関係の特色はどんなところにあるのかを知ろう。

1　青年期の延長

近代に**青年期**という概念が生まれた当初，その期間は数年で十分とみなされていた。

↓↓↓

現代, 特に先進国では良好な栄養状態により身体の発達は早期化した（＝〔　　　　　　　　〕**現象**）が，青年期は延長の方向にある。

※社会の複雑化，知識や技術の高度化，生き方の多様化などが背景。

2　青年期の特徴

①青年期スパート

出生時からある男女の生殖器の違いである第一次性徴に続き，身体的には〔　　　　　　　　　　〕が現れ，精神的には〔　　　　〕**のめざめ**が始まる。

※関心が他人・外界だけでなく自分自身・内面にも向けられる。

②「**疾風怒濤**〔シュトゥルム＝ウント＝ドラング〕」の時代

ドイツのゲーテやシラーによる文学運動に由来。

※孤独感や劣等感などの不安や緊張を引き起こす不安定な時期。

③〔　　　　　　　　　　〕

３歳前後の第一反抗期に対し，青年期には親や教師などに対して反抗的な態度をとるようになる。長い「中二病」的なもの。

④〔　　　　　　〕**離乳**

アメリカの心理学者ホリングワースによる定義。

※親から精神的に自立しようとする時期。

⑤〔　　　　　　　　　〕
フランスの啓蒙思想家〔　　　　　　〕が教育書『エミール』の中で定義。
※児童期や学童期とは質的に異なる発達が始まる時期。

⑥〔　　　　　　　　　　　　　　〕**〔境界人・周辺人〕**
ドイツの心理学者〔　　　　　　　　〕による分析。子どもと大人の間で揺れる不安定な存在。

> わたしたちは，いわば，二回この世に生まれる。一回目は存在するために，二回目は生きるために。はじめは人間に生まれ，つぎには男性か女性に生まれる。（中略）これがわたしのいう第二の誕生である。
>
> ルソー『エミール』
> 今野一雄訳（岩波書店）

3　青年期の人間関係

①〔　　　　〕**価値的〔アンビヴァレント〕**な部分
自信と不安，強さと弱さ，優越感と劣等感など。
※放っておいてほしい反面，構ってほしい。ドイツの哲学者・教育者シュプランガーは青年期の“ツンデレ”状態を的確に指摘している。

②〔　　　　　　　　　〕**のジレンマ**
　オーストリアの精神分析学者フロイトが，ドイツの哲学者ショーペンハウアーの寓話を引用したもの。
※孤独が嫌で仲良くなりたいが，近づきすぎると傷つけあってしまう。

ヤマアラシ

まとめ
青年期は，自我にめざめ自立しようとするが，不安定な時期でもある。
青年期の人間関係は，両面価値的〔アンビヴァレント〕である。

Chapter2　青年期の課題

目標

よくいわれる「個性」って何か，考えてみよう。
青年期に最も必要なことについて考えよう。

1　パーソナリティの類型〔タイプ〕

〔　　　　　　　　　　　　〕は，**人格・性格・**〔　　　　〕などと訳され，能力（知的・技能的側面），気質（情緒的側面），性格（意志的側面）の**３要素**からなる。

※これらは**遺伝**的要因と〔　　　　〕的要因が影響し合い形成される。

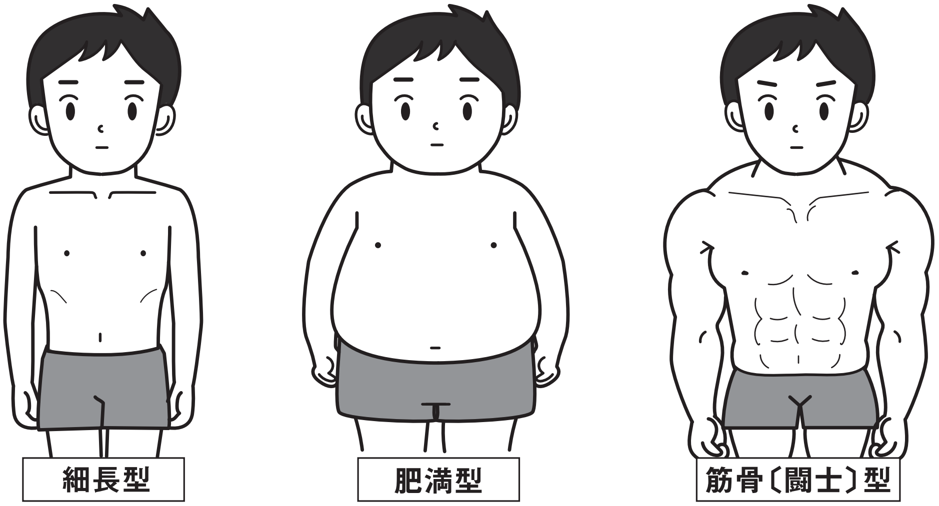
①スイスの心理学者〔　　　　　〕は，心的エネルギーが向かう方向により〔　　　　〕型と**内向**型の２類型にパーソナリティを分類した。

②ドイツの精神医学者〔　　　　　　　　　　〕は，気質と体型の関連を指摘し，分裂気質＝細長型，躁鬱〔循環〕気質＝肥満型，粘着気質＝筋骨〔闘士〕型の３類型にパーソナリティを分類した。

③性格は５つの因子によってほぼ分類できるとする〔　　　　　　　　　　　　　〕理論もある。

④ドイツの哲学者シュプランガーは，価値観を基準に理論型，経済型，審美型，社会型，権力〔政治〕型，宗教型の６類型にパーソナリティを分類した。

⑤アメリカの心理学者オルポートは，成熟した人格〔パーソナリティ〕の基準は６つあるとした。



細長・肥満・筋骨

2　ライフサイクル〔人生周期〕

アメリカの心理学者〔　　　　　　　　　　〕は，人生は８つの発達段階をもつ〔　　　　　　　　　　〕**〔人生周期〕**を経て展開し，そこには心理的・社会的な〔　　　　　　〕があるとした。

※青年期の発達課題は〔　　　　　　　　　　　　〕**〔自我同一性〕の確立**。この時期に個性化・社会化に失敗すると**アイデンティティの拡散〔危機〕**状態に陥る。

※アメリカの教育学者**ハヴィガースト**による，青年期における 10 項目の発達課題説もある。

	取り組む課題			獲得する事柄
老年期	自我の統合	⟷	絶　望	英　知
壮年期	生殖性	⟷	停　滞	世　話
成人期	親密さ	⟷	孤　立	愛
青年期 (13～21 歳位)	**アイデンティティの確立**	⟷	**アイデンティティの拡散**	忠誠心
学童期 (6～13 歳位)	勤勉性	⟷	劣等感	自己効力感
児童期 (2～6 歳)	積極性	⟷	罪悪感	目　的
幼児期 (1～2 歳)	自律心	⟷	恥・疑惑	意志力
乳児期 (～1 歳)	信　頼	⟷	不　信	希　望

エリクソンのライフサイクル論

まとめ

個性は，能力・気質・性格の３要素からなる。

青年期に最も必要なのは，アイデンティティを確立することである。

第 1 講 PART2 確認問題

1 親や教師などに対して反抗的な態度をとるようになる時期は何か。

① 第二反抗期 ② 第二次性徴
③ モラトリアム ④ 疾風怒濤の時代

2 ホリングワースは青年期の特徴を何と呼んだか。

① 第二の誕生 ② 両面価値的な部分
③ 心理的離乳 ④ ヤマアラシのジレンマ

3 児童期や学童期とは質的に異なる発達が始まることから，青年期を「第二の誕生」と呼んだ人物はだれか。

① レヴィン ② ホリングワース
③ フロイト ④ ルソー

4 子どもと大人の間で揺れる不安定な存在であるとして，青年を「マージナル = マン」と呼んだ人物はだれか。

① エリクソン ② シュプランガー
③ レヴィン ④ フロイト

5 パーソナリティの３要素のうち，性格は何という側面か。

① 知的側面 ② 意志的側面
③ 情緒的側面 ④ 技能的側面

6 クレッチマーのパーソナリティの３類型のうち，筋骨型にあてはまるのは何か。

① 循環気質　② 分裂気質
③ 躁鬱気質　④ 粘着気質

7 パーソナリティを，心的エネルギーが向かう方向により外向型と内向型の２類型に分類した人物はだれか。

① オルポート　② エリクソン
③ クレッチマー　④ ユング

8 パーソナリティを，価値観を基準として理論型，経済型，審美型，社会型，権力〔政治〕型，宗教型の６類型に分類した人物はだれか。

① クレッチマー　② シュプランガー
③ ハヴィガースト　④ オルポート

9 エリクソンのライフサイクル論における発達課題のうち，成人期の課題は何か。

① 勤勉性　② 積極性
③ 親密さ　④ アイデンティティの確立

10 青年期における10項目の発達課題説を唱えたアメリカの教育学者はだれか。

① ハヴィガースト　② ユング
③ オルポート　④ エリクソン

第1講　PART2　確認問題 解答

1 解答：①　第二反抗期に対して，第一反抗期は 3 歳前後に起こる。

②：青年期に現れる身体的な特徴のこと。
③：青年期に社会的責任の一部が猶予されること。
④：孤独感や劣等感などの不安や緊張を引き起こす不安定な青年期のこと。

2 解答：③　親から精神的に自立しようとすることである。

①：ルソーが定義づけた。
②：シュプランガーによる，青年期の人間関係の特徴。
④：フロイトが定義づけた。

3 解答：④　教育書『エミール』の中で定義づけた。

①：青年を「マージナル＝マン（境界人・周辺人)」と呼んだ人物。
②：青年期の特徴を「心理的離乳」と定義づけた人物。
③：青年期の人間関係を「ヤマアラシのジレンマ」と呼んだ人物。

4 解答：③　マージナル＝マンは，境界人，周辺人とも呼ばれる。

①：青年期を「モラトリアム」と呼んだ人物。
②：青年期の人間関係の特徴は「両面価値的な部分」にあるとした人物。
④：青年期の人間関係を「ヤマアラシのジレンマ」と呼んだ人物。

5 解答：②　性格とは，人間の行動や考え方の特徴的な型のことをいう。

①：能力の側面である。
③：気質の側面である。
④：能力の側面である。

6 解答：④　筋骨型は闘士型とも呼ばれる。

①：肥満型の気質である。
②：細長型の気質である。
③：肥満型の気質である。

7 解答：④　ユングは，パーソナリティを外向型と内向型に分け，感情表現と対人関係における相関を研究した。

①：成熟した人格［パーソナリティ］の基準は６つあるとした人物。
②：人生には８つの発達段階があるとした人物。
③：パーソナリティを，分裂気質，躁鬱［循環］気質，粘着気質の３類型に分類した人物。

8 解答：②　シュプランガーは，人生はその人が追求する価値観によって方向づけられると考えた。

①：パーソナリティを，分裂気質，躁鬱［循環］気質，粘着気質の３類型に分類した人物。
③：青年期における 10 項目の発達課題説を唱えた人物。
④：成熟した人格［パーソナリティ］の基準は６つあるとした人物。

9 **解答：③**　成人期に獲得する事柄は「愛」である。

①：学童期（6 ~ 13 歳位）の発達課題である。
②：児童期（2 ~ 6 歳）の発達課題である。
④：青年期（13 ~ 21 歳位）の発達課題である。

10 **解答：①**　ハヴィガーストは，青年期における発達課題として，「親からの心理的独立」「職業の選択の準備」などをあげた。

②：パーソナリティを，心的エネルギーが向かう方向により外向型と内向型の２類型に分類した人物。
③：成熟した人格〔パーソナリティ〕の基準は６つあるとした人物。
④：人生には８つの発達段階があるとした人物。